

四天王寺和らぎ苑

新型コロナウイルス感染に終始した昨年度、未だ先は見えないが我々が目指すのはご利用者の笑顔である。ややもすれば笑顔が消えがちなコロナ禍、このような状況下こそ”和” チームワークをもって、ご利用者の笑顔を見失わないように、笑顔のために進んでいきたいと考える。この目標のために示された令和3年度法人事業方針を基に、和らぎ苑事業計画を7つの観点から策定する。

～具体的な事業活動～

(1) 理念の継承

我々が目指すのは、ご利用者の笑顔。ご利用者の笑顔が拠り所である。四天王寺福祉事業団の一員として、全ての人の幸せを願い「人の幸せをよろこびとして」「人の尊厳と主体的な生活を守り」「安心して暮らせる和らぎ苑づくり、地域づくり」を目指す。一日の始まりは「おはよう」の挨拶から。共に働くパートナーとして、職員同士お互いを確かめ合い、そして各人は自分が和らぎ苑の顔であること、代表であるという意識をもって業務にあたる。

(2) チームで支える、利用者さん中心の施設

ご利用者を職員のみではなく、ご家族とともに”和”で結ばれた大きな家族として、協働してご利用者を支える。多職種間での意見交換、情報共有にこそこころがけ、「本人さんはどう思っているんやろ」、今行っていることは職員の自己満足になっていないか、独りよがりになっていないかと常に振返る。そして温かで高度な医療と福祉・介護が両輪となって、目指すはご利用者により豊かな日常生活を提供することである。

(3) 地域のための施設

和らぎ苑は地域を支える基幹施設であることを各人認識し、果たすべき使命をむねに、中長期計画を立てていきたい。本年度も、在宅支援としての訪問事業の充実と、短期入所事業は重要項目である。通所事業の生活介護、児童発達支援、放課後等デイサービスは、ハード面の問題解決に向い検討したい。外来診療（内科、小児科、小児外科）、障害児者リハビリテーション、歯科診療（障害児者歯科、摂食嚥下、一般歯科）は地区になくてはならない存在であり、果たすべき役割を再検討し和らぎ苑の進むべき方向を定めたい。また、この地区での交流、保健所、行政機関との連携を深めたい。

(4) 安全で安心できる施設

安全管理は施設の生命線。医療安全、安全衛生、感染症対策、防災対策を各部署、悲田富田林苑とともに、活用可能な対策を構築し、マニュアルを見直し常に改善していく。セーフティマネジメント機能の推進と強化。感染症対策、安全衛生管理の委員会活動を継続、深化させる。

(5) 知識技術の向上、学術集会等への参画

職員は、各人が専門職（プロフェッショナル）として、知識と技術の向上を目指す。法人研究発表会への積極的参加とともに、国内外学会・研究会、研修会への参加および学術報告を推進する。

(6) 教育システムの確立

医療型心身障害児入所施設・療養介護の職員として、重症心身症障害児者の現状を知り、問題点・施設の役割を各人が認識することが大切である。そのために、専門職としての知識、技能、態度・情意を育成していく教育システムを構築する。これとともに次世代をになう人財を育成していく。

(7) 経済的安定

経済的基盤の確保は、私たちの目標を達成するための礎である。無駄な経費を削減するとともに、各人経営感覚を持つことが大切で、現在必ずしもよい経済的状況ではないが、この時期であるからこそ、必要なもの、箇所に最大限投資すべきと考える。以下に本年度の目標数値を挙げる。施設入所（療養介護、医療型障害児入所施設）は定員満床を達成・維持し稼働率99.2%を目指す。短期入所60.0%、通所事業73.2%、外来診療130.8%、訪問看護84.1%をそれぞれ目指す。

～改善活動～

(1) 重症心身障害児者の現状と、施設の役目の共通認識。

(2) 職場環境、労働負担の改善。身体負担軽減。介護リフトの導入。

(3) 高度で温かな医療、介護の提供。倫理観醸成「本人さんはどう思っているんやろ」。

(4) 療養環境の改善。

(5) ボランティア活動の模索。外部への依頼。

(6) 在宅支援事業の強化。短期入所、訪問看護リハ、通所でのチームワーク推進。

(7) 在宅支援のための中長期立案と実現に向けての検討。在宅支援センター設立に向けて。

(8) 防災、災害に向けて、マニュアル検証と実践訓練の実施。

(9) リモート会議、診療、リハビリテーション、療育の実施。